

平成 17 年度 秋期 上級システムアドミニストレータ 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1 〔出題趣旨〕

多くの企業が経営の効率向上を目指して、業務のアウトソーシング又は基幹システム導入による間接業務の現場部門への分散などで、間接部門のスリム化を図っている。

本問は、間接部門が、間接業務の効率向上を実現するために、業務プロセスを見直し、集中・分散すべき業務及び各部門の役割を明確にした上で、情報システムを活用して業務の効率向上を図った施策について、具体的な論述を求めている。システム導入におけるシステムの設計や開発を中心とした論述は、出題趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、解答者の経験に裏打ちされた要件定義のための業務分析能力、モデル化能力、問題解決能力、及び問題解決に向けた主体性やリーダーシップを評価する。

問 2 〔出題趣旨〕

情報の社外流出が、企業の存続を脅かしかねないほど重大な問題となってきた。セキュリティを高めることは、企業防衛だけではなく、顧客の信頼や従業員の安心を得ることにもつながり、企業にとって最重要課題の一つになっている。

本問は、情報の社外流出事故を防止するために、業務プロセスや情報システムを見直し、セキュリティを高める工夫について、セキュリティポリシーとの関連及び内部管理や委託先の管理・監督の観点を含めて、具体的に論述することを求めている。単なる個別対策の羅列、情報システムのセキュリティ対策だけの論述は、出題の趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、解答者の経験に裏打ちされたリスク管理能力、問題分析能力、問題解決能力、及び問題解決に向けた主体性やリーダーシップを評価する。

問 3 〔出題趣旨〕

企画業務を実施する場合は、日常業務で蓄積された様々な内部データだけでなく、外部から入手したデータを活用することが求められる。これらのデータを効果的に活用するためには、各データを分析し、データの特性や整合性を十分に吟味し、データ補完の必要性などを検討する必要がある。

本問は、企画担当者として、内部データと外部データを業務に活用する場合に、データの特性をどのように把握し、整合性の確保や補完の必要性などの問題点をどのように解決したかの具体的な論述を求めている。データ活用における情報システムの仕組みや構築を中心とした論述は、出題趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、解答者の経験に裏打ちされた分析能力、洞察力、データ活用能力、問題解決能力、及び問題解決に向けた主体性やリーダーシップを評価する。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。